府立東住吉総合高等学校
校 長　　雑 賀　文 彦

令和５年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

■　工業・商業系列等を持つ総合学科として、多様な進路実現を可能にし、生徒が夢を実現できる学校、地域・保護者から厚く信頼される学校をめざす。
　１.「探そう　東総　明日の自分！」をキーワードとしてキャリア教育・職業教育を力強く推進する学校。
　２.「基礎的・基本的な知識・技能の習得と主体的な活用」を目標に授業で鍛える学校。
　３．学校・家庭・地域等と連携し、多様な他者との共有を図り、生徒一人ひとりを大切に、「ともに学び、ともに育つ」教育活動を展開する学校。
　４.「目標達成に向け意欲的に取組む学校運営体制」を確立し、府民の期待に応えられる学校。
★ めざす生徒像：「よりよい社会を切り拓いていくために、価値観の異なる多様な他者と調整しながら課題解決に向けて実行できる生徒」

２　中期的目標

１　確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現
（１）総合学科の特長を生かした系列の編成と自主性・自立性を育成する実業教育・キャリア教育を推進し、３年間の学びで総合的な学力を育てる。
　ア、３年間の体系的なキャリア教育プログラムを発展させる。
　イ、外部人材・外部組織の積極的な活用やインターンシップの拡充により、実業教育の充実に努め、資格取得を促進する。
　ウ、四年制大学の総合型選抜（AO 入試）・学校推薦型選抜（公募制入試）・一般選抜を視野に入れ、進学指導を充実させる。
　　＊進路実現については、進路未決定率を引き下げ、令和７年度には０％をめざす。（R2：0.9%、R3：0.5%、R4：0.9%）
　四年制大学進学者数を引き上げ、令和７年度引き続き 50 人以上をめざす。（R2：31 名、R3：45 名、R4：56 名）
（２）学ぶ姿勢を確立し、基礎・基本の習得を中心に「確かな学力」の育成に努めるとともに、その主体的な活用をめざす。
　ア、情報の入力（読む、聞く）、処理（まとめる：情報の整理、関連づけ、課題発見、課題解決策の提示等）、出力（書く、話す）能力を育成するため、探究活動の推進をはかると共に、「TRY ルーム」等を活用し、グループ学習を充実させ、本校のキャリア教育をより進化させる。
　イ、１人１台端末、オンライン授業を視野に入れた ICT 等を活用した取組みの推進。
（３）新学習指導要領の確実な実施：確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びの実現のための「魅力ある授業づくり」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
　ア、学力向上プロジェクトチーム（GPT）を中心に、本校のめざす授業について考察し、教員相互の授業見学の機会を促進させる。
　　＊学校教育自己診断の「学習指導に関する」項目の生徒評価を、令和７年度引き続き 75%以上にする。（R2：75.2%、R3：74.3、R4：81.3%）
　イ、資格取得を系列・教科の学習の１つの目標とすることで、将来を見通した学力を育成し進路実現につなげる。資格取得プロジェクトチーム（SPT）を中心に、多様な資格の情報を提供し資格取得のための講習や補講を行う。
　　＊ボランティア、インターンシップ等の学外活動と３年間の資格取得者の割合を増やし、令和７年度 75%以上にする。
（R2：69.6%、R3：76.6、R4：56.9%　※コロナ禍）

２　社会とつながる力の育成
（１）あいさつ、服装、遅刻、清掃などの指導に全教員で取り組み、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を育む。
（２）体育祭・文化祭等の行事を通して、クラス活動や各種委員会活動で生徒会活動の活性化をはかる。
（３）部活動の種類と質を充実させるとともに、地域行事、学校説明会・オープンスクール等でのボランティア活動の機会を増やし、生徒力のより一層の活性化をはかる。
　ア、部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、部活動の活性化をはかり、地域の行事等に積極的に参加する。
　　＊令和７年度までの３年間、引き続き中退率を 1.0%以下にする。（R2：7名・1.0%、R3：0.3%、R4：0.9%）
　　＊部活動加入率を増やし、令和７年度には 50%にする。（R2：49.3%、R3：46.5%、R4：47.1%）
（４）道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して、道徳教育、人権教育を推進する。
（５）国際交流の推進
　ア、よりよい社会を切り拓いていくために、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえ、多様な価値観を持つ他者と調整しながら物事を前に進める力（他者共有力）を育成するため、韓国をはじめとした諸外国との学校交流を推進する。

３　地域連携と広報活動の充実
（１）保護者面談や適宜の家庭訪問によって家庭との日常的な信頼関係を築くとともに、保護者メール等によって学校情報の確実な伝達をめざす。
（２）中学校教員対象説明会や中学校訪問により生徒情報を把握し指導に生かすとともに、平野区や子供相談センター等と連携し生徒の就学保障につとめる。
（３）ホームページの更新、オープンスクール等の充実、近隣の小中学校への出前授業の実施等により、学校の情報や魅力の発信に努める。
（４）地域公開講座・PTA バザー等を継続して実施し、地域行事等への教職員と生徒の参加を積極的に支援する。
　ア、広報プロジェクトチーム（KPT）を中心にし、中学校の教員、中学生、保護者や地域への効果的な広報活動について見直し、検討する。
　＊学校説明会・オープンスクールへの参加者を増やし、令和７年度には、700 名をめざす。（R2：677 名、R3：－、R4：557 名）

４　生徒を支える校内体制の充実
（１） 首席連絡会や運営委員会、職員会議等の各種会議の連携を強化し、分掌・学年が情報を共有、協力して迅速に課題解決にあたることのできる体制を整える。
　＊学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員評価を増やし、令和７年度には 70%にする。
（R2：57.9%、R3：53.7%、R4：46.8%）
（２）支援教育コーディネーターを軸に SC・SSW や支援教育サポート校等と教育相談・生徒支援委員会等との連携をはかり、生徒を組織的に支援する。
　＊学校教育自己診断「教育相談に関する項目」の生徒肯定率を引き続き 70%以上にする。（R2：71.0%、R3：73.3%、R4：74.9%）
（３）自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。

府立東住吉総合高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和５年１２月実施分］	学校運営協議会からの意見
1.学習指導 生徒：学校満足度は83%と前年度より1.6ポイント上昇、授業については「わかりやすく楽しい」76%、教科指導の対応については「丁寧に対応している」85%、１人１台端末の効果的な活用は90% 【分析】学校の特色を活かし学校満足度の向上改善が行えている。また、１人１台端末の効果的な活用も授業などで積極的に活用がなされている。今後、これ以上に授業や教科指導の満足度を向上させるために改善していく。 2.生徒指導 生徒：直接社会へ移行していく生徒が多い中で、日々の生活習慣（挨拶等）に関する肯定的回答91％【分析】今年度から入れた項目であるが、日常的に挨拶ができている様子が伺える。日々の「あいさつ運動」も効果的である。 3.自主活動 生徒：文化祭や体育祭は楽しく行えるように工夫されているの肯定的回答81％【分析】前年度より６ポイント減少、コロナ5類移行後、以前のような形態に戻したが、文化祭では入場者を家族限定にするなど、規制をしたのが原因と考える。今後は一般入場も可能にするなどの検討していく。 4.人権教育、生徒相談体制 生徒：人権について学ぶ機会がある肯定的回答91%と微増、また、「悩み相談に応じてくれる先生が多い」81％２ポイント向上。 【分析】定期的なアンケートの結果が高い数値に表れていると思う。引き続き継続して教員研修等を含め支援体制の確立・強化に取組んでいく ５．キャリア教育 生徒：進路指導体制肯定的回答90%や総合学科の仕組み選択科目の選び方肯定的回答87% 【分析】前年度より進路指導体制肯定率回答は１ポイント向上、総合学科の仕組み選択科目の選び方肯定的回答87%で２ポイント向上様々な学習機会を通して社会での生き方を生徒に伝えているため高い数値である。また、選択科目が多い総合学科の科目選択についても丁寧な説明がなされているため肯定率が高い。今後は今まで以上に職場体験・インターシップを通じて早期に自己の進路を見つけ出す取組みは継続して実施していく必要がある。 ６．保護者の学校に対する学校意識 保護者：「学校満足度」肯定的回答92%、「教員信頼度」肯定的回答83%、「情報提供」肯定的回答７0%、「学校参画」肯定的回答52%である。 【分析】「学校満足度」20 ポイント向上、「教員信頼度」１４ポイント向上、「情報提供」１ポイント向上、「学校参画」14 ポイント向上、全てにおいて向上が見られる。入学後に本校の魅力を知ってもらっている。入学してよかったという肯定率が飛躍的に伸びている。今後もこの状況を保つように教育活動を進めていく。	第１回(5/25) 〇学校状況について ・昨年度より遅刻生徒が増加しているが何か要因があるのか 原因がコロナ関係であるかどうか不明 ・１年生の部活動加入率が 50%であるが、もう少しクラブに入って頑張ってもらいたい。 ・１年次より進路について考える機会を持つことは非常に良いことだと思う。コロナ禍で中止としてきた、インターンシップや企業見学は企業側かららも是非、復活してほしいと要望を受けている。 ・学業とともに学校行事を楽しむことはよいことなのでそのまま続けてほしい 第２回(11/2) 〇学校状況について ・生徒が作成した学校紹介ビデオはオリジナリティがあってよくできている。今後、学校から発信に活用してほしい。 ・外部連携では、３年生が多数参加したが、ほとんどが就職内定している。内定はいつ取り消しがあるかわからないので、今後も引き締めていってほしい。 〇授業見学について ・授業見学で生徒自身だけで授業をやっているところがあった。まとまっていて雰囲気が良い。 ・自分たちで与えられた課題をやっている。 ・みんな静かに授業を受けている。少人数で雰囲気が良い。 ・教えあいを有効にやっている。教師からの一方通行でない。 ・もっと見学会を実施して、このような機会を増やしてほしい。 第３回（2/19） 〇学校教育自己診断について ・特に意見はないが、前年度より肯定率が向上しているのは入学生にとって良いことだと思う。 ・「初任者や若手の育成の体制」の項目の数値が低いので心配である。 初任者研修などレポート課題が多く他の教員からの指導機会が減っている。しかし学校全体で指導声掛けを意識して行っている。 〇学校の状況について ・高校と地域（町会）との関りが薄くなってきているので連携を強めてほしい。 行動制限が解除されることによって、コロナ前の状況まで進めていきたいと考えている。また、地域の行事が復活すれば、学校に声をかけていただきたい。 ・挨拶をしてくれる生徒が増えている。良い傾向である。 ・PTA として取り組めることをしていきたい。できる環境づくりをしたいと要望大変心強くありがたい。 〇令和５年度学校経営計画及び学校評価（案）承認 〇令和６年度学校経営計画（案）及び学校評価　承認

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R４年度値］	自己評価
1 確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学び	（1）自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進 ア、体系的キャリア教育プログラムの充実 イ、資格取得の促進と実業教育の充実	（1）自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進 ア・「TRY ルーム」をキャリア教育の拠点とし、ポートフォリオ的な教材等を活用したキャリア教育プログラムの取り組みを一層充実させ、生徒の進路意識の早期の向上に努める。 ・学校マネジメント予算等を活用し、フィールドコア平野をはじめ地元企業などの外部人材と連携した、キャリア教育を実践し、進路指導を充実させる。 ・「電気技術系列」のあり方を系列長を軸に模索し、キャリア教育の推進をはかる。 イ・資格取得を系列・教科の学習の１つの目標とし、資格取得プロジェクトチーム（SPT）を中心に、多様な資格の情報を提供し、長期休業中等を活用した資格取得のための補習・講習をさらに充実させ、質の高い資格に挑戦させる。	（1） ア・学校教育自己診断「系統的なキャリア教育を行っている」の項目教職員の肯定率を引き続き 80%以上を維持する。 ［85.1%］ ・就職一次試験の内定率の 75%以上を維持する。［88.0%］ ・進路未決定率を 3.5%以下維持。［0.9%］ イ・ボランティア、インターンシップ等の学外活動と３年間の資格取得者の割合を引き続き、75%以上にする。 ［56.9%］　※コロナ禍	（1） ア・学校教育自己診断「系統的なキャリア教育を行っている」の項目教職員の肯定率 71%[△] ・就職一次試験内定率 91.6% ［◎］ ・卒業生の進路未決定者は０名 ［◎］ イ・コロナ５類に移行によりボランティア、インターンシップ等の学外活動増加１６６名、今年度 27 資格に２１１名が合格 ３年間の資格取得者 75%[〇]

の実現	ウ、進学指導の充実	ウ・総合型選抜（AO 入試）・学校推薦型選抜（公募制入試）・一般選抜を視野に入れ、「英数系列」のあり方を系列長を軸に模索し、生徒に対する講習を充実させながら、進学指導を拡充させる。 ・学力向上プロジェクトチーム（GPT）等を中心に放課後学習、講習等の充実をはかる。 ・「TRY ルーム」を講習や放課後自習室として開放することにより、進路実現に導く。 ・教育産業の基礎力診断テスト、模試を各学年全員に実施し、自己の学力の到達度を客観的に知ることで、進学意識の向上と受験学力の育成に１年次から取り組ませる。	ウ・中堅大学合格者を含め、４年制大学合格者引き続き 45 名以上。 ［56 名］	ウ・中堅大学合格者を含め、４年制大学合格者５９名[◎]
	（２）生徒の学力の現状把握とニーズに合った授業の実践 ア、ICT を活用した授業の推進	（２）生徒のニーズに合った授業の実践 ア・教育産業による学習動画配信サービス等を活用し生徒の学習習慣の定着をはかる。 ・教育産業による学力分析システム等を活用し、生徒の学力の経年変化を把握する。 ・学力向上プロジェクトチーム（GPT）を中心に、確かな学力の育成と主体的・対話的で深い学びのための実践方法を模索する。 ・SDGs の視点や「探究」を視野に入れた課題研究や主体的・対話的で深い学びを各教科で実践する。 ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員を増やすことで、教材の共有化をはかり、教材研究にかける時間の短縮をすすめる。「１人１台端末アクションプラン」や「オンライン活用ガイドライン」をもとに生徒の学習を支援し、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせるなど生徒の学びの深化をはかる。 ・年２回の公開授業週間などを活用し、教員相互で授業観察を行い、観察シートを提出する。	（２） ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率を引き続き 70%以上を維持する。 ［81.9%］ ・ICT 機器を有効に活用して授業ができる教員を引き続き 85%以上を維持する。 ［87.9%］ ・教員の相互授業観察件数 引き続き 60 件以上［71 件］	（２） ア・学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の項目生徒肯定率 84%[◎] ・学校教育自己診断「ICT 機器を有効に活用して授業ができる」の項目教員肯定率 89.5%[◎] ・教員の相互授業観察件数 65 件[○]
	イ、政治的教養を育む教育の推進	イ・１年次と社会科が協力して、授業を組み立て、平野区の選挙管理委員会との連携を図って実践する。	イ・政治的教養をはぐくむ教育を１年次「産業社会と人間」にて実施する。その際、生徒の成果物やアンケート等をふまえ、生徒の深い学びへと繋げる。	イ・在籍中に成人に達することを踏まえて、選挙管理委員会と連携し模擬投票等を実施した結果政治や社会に対する関心が深まった。
	ウ、芸術系３科目合同卒業制作発表会の実施	ウ・音楽Ⅲ、美術Ⅲ、書道Ⅲ選択者合同の卒業制作発表会を通して、主体的・対話的で深い学びを実践する。	ウ・発表会後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率 90%以上。 ［97.0%］	ウ・発表会後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率 91% ［○］
	エ、適切な教育課程の編成と「新学習指導要領」の内容の教職員への周知と「観点別学習状況の評価」の実施	エ、適切な教育課程の編成と新学習指導要領の理念の１つである育成すべき資質・能力の三つの柱を意識した「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取組む態度」の３観点の学習状況の評価の充実を進めるとともに指導と評価の一体化の観点から PDCA サイクルによる授業改善を進める。	エ・３観点の学習状況の評価を中心とした授業改善に関する校内研修を年間１回以上実施する。	エ・３観点の学習状況の評価を中心とした授業改善に関する校内研修を年間３回実施［○］
	（３）「魅力ある授業づくり」をめざした授業改善	（３）「魅力ある授業」をめざした授業改善	（３）	（３）
	ア、授業アンケートの有効活用	ア・年２回の授業アンケートを実施し、授業見学をもとに授業改善に取り組む。	ア・学校教育自己診断「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」の項目教職員の肯定率 80%以上をめざす。 ［72.3%］	ア・学校教育自己診断「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」の項目教職員の肯定率 66%[△]
	イ、教育内容の充実	イ・学力向上プロジェクトチーム（GPT）を中心に、ICT の活用や主体的・対話的で深い学びの実践などに関する校内研修を計画して教員同士の授業観察を促進し授業改善に取り組む。	イ・授業アンケートの平均値を引き続き 3.30 以上を維持する。 ［3.39］	イ・授業アンケートの平均値 3.39[○]

府立東住吉総合高等学校

２　社会とつながる力の育成	（１）基本的生活習慣の確立と規範意識の育成 ア、生徒指導部を中核とした指導体制の充実	（１）基本的生活習慣の確立と規範意識の育成 ア・年度初めに、校内で統一した指導体制を再確認する。 ・遅刻指導・頭髪指導は年間を通して計画的に実施する。 ・遅刻者への早朝指導、放課後指導の中で、「時間の大切さ」を自覚させ、遅刻常習者を減少させる。 ・清掃指導を充実させ、生徒の清掃当番を確立し校内美化に努める。	（１） ア・年間遅刻総数 2000 件未満。［2213 件］ ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣について」の項目生徒肯定率 77%以上。［83.9%］	（１） ア・年間遅刻総数 2578 件［△］ ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣について」の項目生徒肯定率 82.8%［◎］
	（２）生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア、体育祭、文化祭実行委員会の活性化	（２）　生徒会活動及びクラス活動の活性化 ア・生徒会部創設以来、進化をとげてきた生徒の自主性を尊重し改善を加えながら、さらによりよい活動・行事へと発展させる。 ・体育祭・文化祭については生徒の主体性を喚起しつつ、地域への一般公開を実施する。 ・生徒の各種委員会の活性化をはかる。 ・学校行事への生徒サポーターの参加を促進する。	（２） ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率を引き続き 70%以上を維持する。［77.1%］ ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率を引き続き 80%以上を維持する。［87.0%］	（２） ア・学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の生徒肯定率を引き続き 79%［○］ ・文化祭、体育祭に関する生徒肯定率 80.6%［○］
	（３）部活動の充実 ア、部活動の活性化に向けた取り組み推進	（３）　部活動の充実 ア・部活動活性化プロジェクトチーム（BPT）を中心に、体験入部、部活動の活動や発表の「見える化」、運動部の中学生向け「東総カップ」、合同部活動・練習など、本校の部活動について検討し、部活動動画の充実を図る。 ・本校 HP へ部活動の活動状況の更新を迅速にする。 ・部活動活動方針に則り活動を行う。	（３） ア・部活動加入率 50%以上［47.1%］ ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率を引き続き 65%以上［65.1%］	（３） ア・部活動加入率 39%［△］ ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の項目生徒肯定率 64%であるが、入部している生徒は個々に努力している。［○］
	（４）人権教育と道徳教育の推進	（４）人権教育と道徳教育の推進 ・道徳教育推進教師と人権教育推進委員会の連携を通して多様な手法により人権ホームルーム等の充実をはかり、人間としての在り方生き方についての考えを広める。	（４） ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率を引き続き 73%以上を維持する。［83.2%］	（４） ・「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の項目生徒肯定率 84.5%［◎］
	（５）国際交流の推進	（５）国際交流の推進 ・韓国をはじめとした諸外国との学校交流を推進する。	（５） ・学校交流後の事後アンケート「生徒満足度」の項目生徒肯定率 80%以上。［91.7%］	（５） ・地域連携やボランティア活動に尽力したため国際交流活動はできていない。次年度は外国語語学教育に形を変えて実施する。［△］
３　地域連携と広報活動の充実	（１）家庭との日常的な信頼関係をつくる	（１）家庭との日常的な信頼関係の構築 ア・学校情報の保護者へのスムーズな伝達に努め、保護者の理解と協力を仰ぐ。 ・学校 HP にある PTA 専用のタブや保護者メール等を活用し、授業参観、学校行事、PTA 行事等の保護者向けの情報の発信を迅速に行う。 ・教職員の PTA 活動への参加を促す。	（１） ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 62%以上［36.7%］ ・「教職員は PTA 活動に参加している」の項目教職員肯定率引き続き 45%以上を維持する。［49.0%］	（１） ア・学校教育自己診断「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目保護者肯定率 52%で目標値には達していないが 16 ポイント増加は昨年度より保護者が学校に行事に参加していることが伺える［○］ ・「教職員は PTA 活動に参加している」の項目教職員肯定率 50%［○］
	（２）中高連携と関係機関との連携を強める	（２）中高連携と関係機関との連携強化 ア・クラブ交流等を通して、地元の中学校との連携を促進する。	（２） ア・クラブ交流等の回数を引き続き 35 件以上をめざす。［13 件］	（２） ア・クラブ交流等回数 29 件で目標値には達していないが１６件増加している。近隣中学校との交流は本校生徒の自身の成長にも繋がり効果的であった［○］
		イ・中学校教員への出前説明会を広める。	イ・出前説明会を年間２回以上実施する。	イ・出前説明会を年間３回実施［○］
		ウ・生徒主体の学校説明会、オープンスクール等の充実。	ウ・生徒主体の学校説明会やオープンスクールを年４回実施する。	ウ・生徒主体の学校説明会やオープンスクール年４回［○］
	（３）学校の情報や魅力の発信	（３）学校の情報や魅力の発信 ア・ホームページによる学校の魅力の発信。 ・各分掌に配置した広報担当によるホームページの更新をすすめ、学校情報の迅速な発信を行う。 ・広報プロジェクトチーム（KPT）を中心に、QR コードを活用した学校情報の発信について検討する。	（３） ア・学校説明会等参加者を引き続き 650 名以上をめざす。［参加者延べ 665 名］	（３） ア・学校説明会等参加者述べ人数 674 名［○］

府立東住吉総合高等学校

	（４）地域連携の充実	（４）地域連携の充実 ア・喜連西地域活動協議会と情報を共有する。 ・平野区との連携事業「ひらの青春生活応援事業」等に取り組み、平野区長と平野区内府立高校の意見交換会に年２回参加する。 ・喜連西小サマーキャンプ、喜連西納涼盆踊り黄昏コンサート、地域公開講座、産業交流フェア等へ生徒を参画させ、PTA 活動等とともに地域連携を積極的に支援する。	（４） ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教職員肯定率 85%以上維持。[91.5%]	（４） ア・学校教育自己診断「地域連携」の項目教職員肯定率 87%[○]
４　生徒を支える校内体制の充実	（１）全校的な指導体制をつくる ア、情報の共有化、見える化	（１）全校的な指導体制の構築 ア・首席会議、年次主任会、分掌会議を定例化し、分掌業務において、分掌主導で情報を共有し年次間の足並みをそろえた指導をおこなう。 ・養護教諭参画の年次主任会の週１回開催定例化。 ・各種会議内での意思決定のあり方、各分掌と学年との連携などを意識し、主体的・能動的に教育活動を行う。 ・校内共有フォルダに各会議の記録をアップし、全教職員が閲覧できるようにする。	（１） ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 60%以上。[46.8%]	（１） ア・学校教育自己診断「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」の項目教職員肯定率 42%[△]
	イ、労働安全衛生管理体制の充実	イ・特定の教職員に過度な負担がかからないよう外部人材や外部機関を有効に活用し、組織的に対応する。	イウ・時間外勤務月 45 時間以上の割合を昨年度より減らす。[19.5%]	イウ・時間外勤務月 45 時間以上 11 人 18.3%[○] 定時退庁日には校内放送実施
	ウ、働き方改革	ウ・全校一斉定時退庁日の設定 ・グループウェア等を活用した「校務運営の効率化」		
	（２）個々の生徒への支援体制の強化	（２）個々の生徒への支援体制の強化	（２）	（２）
	ア、教育相談体制の充実と各種会議との連携	ア・高校生活支援カードを活用し、SC と連携した月１回の教育相談・生徒支援委員会により生徒を支援する。 ・貧困、虐待、ヤングケアラー等の生徒の状況について教職員が理解を深め、SSW 等の外部機関と連携し組織的に生徒を支援する。 ・配慮を要する生徒の対応については支援教育サポート校と連携し組織的に対応する。 ・他校の実践を取り入れ、常駐体制を整備する。 ・情報モラルの育成と人権・多様性を尊重する教育の推進を図るとともに、人権侵害事象対策会議、いじめ対策会議等との情報共有を行い、学校全体で生徒を支援する。 ・遅刻・欠席・いじめ、新型コロナウィルスへの不安等、生徒の状況については迅速に関係者会議等を開催し情報を共有しながら組織として生徒を支援する。	ア・中退率 1.0%以下。[６名、0.9%] ・教育相談に関する生徒肯定率を引き続き 70%以上に維持する。[74.9%]	ア・中退率８名 1.2%[△] ・教育相談に関する生徒肯定率 77.3%[○]
	イ、生徒の安全・安心の確保	イ・新型コロナウィルス感染症対策を継続しながら教育活動を工夫し、学びを保障する。 ・PCR 検査受診者情報の共有と保健所等との綿密な連携。 ・自然災害等に備えた防犯及び防災計画の策定。 ・熱中症、感染症、食中毒等の予防、薬物乱用防止の取組み、AED 講習、食物アレルギー（エピペン含む）研修の充実。	イ・教育庁との連携による新型コロナウィルス対応、防犯及び防災計画の策定、ＡＥＤ講習、食物アレルギー（エピペン含む）研修を実施する。	イ・防犯及び防災計画の策定済み ＡＥＤ講習、食物アレルギー（エピペン含む）研修を年１回実施[○]。
	ウ、教員力の強化	ウ・自己と他者を認め合いお互いに協力しあえる雰囲気づくり(生徒間、教職員間、生徒・教職員間ともに)を全教職員が意識する。 ・経験年数の少ない教員の学級経営力を高めるために、教務・進路・生徒指導研修やクラスづくり研修等を実施し、教員の資質の向上を図る。 ・初任者育成チームを結成し、チームで育成する。 ・学力向上プロジェクトチーム（GPT）等による主体的な研修を計画的に行う。	ウ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 70%以上。[74.5%] ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率を引き続き 60%以上に維持する。[63.8%]	ウ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の項目の教職員肯定率 60.5%　[△] ・学校教育自己診断「経験の少ない教職員を育成する体制がとれている」の項目教職員肯定率 58%[△]
	エ、スクールミッション等に基づくスクール・ポリシーの策定。	エ、スクールポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の策定に向けた学校を取り巻く課題等の検討。	エ・「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率 80%以上をめざす。[72.3%]	エ・「計画的に研修が実施されている」の項目の教職員肯定率 74%[△]